

VOL. 16

DEC.
159

成蹊會誌

信行、相馬寛吉、三浦幹男、藤本光昭、学生は鴨打征夫、野田貞男、野田孝男、小島克夫、大木卓明、柳沢栄司、三浦健の十四名です。場所ライオン・ビヤホール（三浦 健記）

東海支部

去る六月二十七日久々に東海支部の会合を行い、大変暑い日でありましたが、社用にて非常に御多忙にもかかわらず、井口史郎支部長初め、副支部長滝兵衛門（高四）丹治道生氏（高四）中村崇氏（高六）川口正昂氏（高一七）由比健郎氏（高二〇）齋藤顯男君大（二）吉田康男君（大六）預良文君（大六）綿引博厚君（大七）桑田泰君新（高四）武内東平君新（高五）石田悌人君（大八）莊英彦君（大八）中川晋一君（新高六）及び小生、岡野（高七）の一六名で、東海支部新人、石田、武内、莊、中川四君の初参加あり、例により「たちそう」にて恩師の懷談から始まり、丹治先輩のヨット日本選手権保持の永久不変から談笑の渦を巻き誠に楽しい一夕の時を過ぎました。会場が幹事小生の手違いで、新たちそうから旧たちそうになった為、一六名の集りには稍狭く、ために一同に集って写真が撮れませんでした。

（幹事 岡野公平）

【昭和三十四年十月十八日附 東海支部発信】

秋冷の候、お変わりもなくお越しのことと存じ上げます。先日は当支部長あて台風の御見舞状を賜わり誠に有難く存じます。早速支部長の意向とともに、全会員にお伝え申し上げました。会員の消息は現在不明ではございますが、住所などより推察して五名程が大きい

成蹊会近況

セントポールズ校留学生

成蹊高等学校から米国ニューハンプシャー州、セントポールズ校に留学生を派遣する経緯につきましては、会誌第十三号で詳説しておきましたが、今年も引続いてセントポールズ校から留学生を送るよう依頼がありましたので、高等学校職員会において、選考会議を開き、慎重審議の結果、中村八郎君（高校三年在学）を推薦してきました。よってセントポールズ校留学生選考委員会を開催し、同君を第六次留学生として送ることに同意しました。

本会としては、この計画に賛意を表し、第五次留学生の時から渡米に要する旅費、並びに支度金として奨学金をおくることに決定、今回も金拾万円を支給致しました。

中村八郎君は去る八月二十七日、出帆の三井船舶最上山丸で渡米し、彼地で勉強中であります。

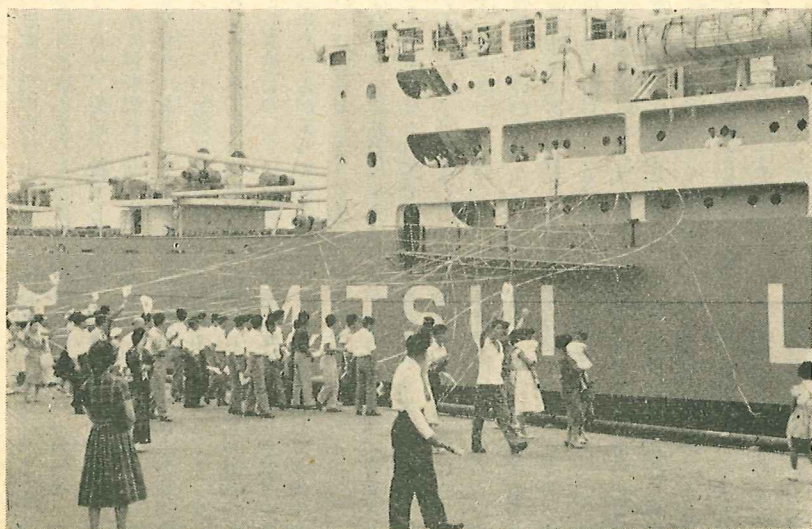
現在迄セントポールズ校に留学した者は左の六名であって、今後同校との取り極めにより隔年毎に留学生を送ることとなる模様であります。

セントポールズ校留学生

第一次	榎原 稔	ハーヴァード大学卒	三菱商事ロンドン支店
第二次	有馬 義夫	ハーヴァード大学卒	洋画家（在米国）
第三次	清水 敏道	セントポールズ大学卒	
第四次	平井 敏道	セントポールズ大学三年在学	
第五次	大久保 基	セントポールズ大学二年在学	
第六次	中村 八郎	セントポールズ大学二年在学	

なお、大久保君、及び中村君からの通信文が来ておりますのでここに掲載し、彼地の学生生活を知っていただきたいと思います。

（谷岡喜久蔵）



中村八郎君セントポールズ校へ発つ（8月27日・横浜港出帆）

被害を受けておられるように思います。さて、大変申しおくれましたが、当支部では、去る八月二十二日、タチソウにおいて学生合同の会合を開きました。残暑なお厳しいながらも二十六名の多数が参加され、盛会でございました。

またこの度、幹事が変更となりました。丹治、岡野両氏の中より岡野氏が辞任され、新たに由比（高二〇）吉田（大六）が任命され合計三名となりました。幹事交替で事務引継に手間取っている中に台風の襲来を受けるやらで、連絡が途切れ、お知らせがおそくなってしまいましたことを、心からお詫び申し上げます。

先ずは御見舞御礼と支部近況報告とを併せて申し上げます。

（幹事 由比健郎）

八月二日会合（学生合同）出席者

於タチソウ

井口 史朗	小机順次郎	上田 良三	滝兵右衛門
丹治 道生	岡野 公平	三好 栄	川口 正昂
由比 健郎	立松 敬志	丸木 正	金井 傑
井上 祐治	綿引 博厚	川出 夏樹	佐藤 博
			以上十六名

学生（順不同）

清水	山田	田内	中島	林
芝原	石原	小川	岩村	小崎
				以上十名
				計二十六名

大久保 基

中村八郎君は九月二十一日の朝早くニューヨークからの飛行機でボストン空港に着き、その日の夕方セントポールズへ行きました。空港ではすぐに両方が見られる事ができ、荷物を受け取ってから、ハーバートの寮へタクシードで乗りつけ、中村君は夜明け迄そこで眠りをとり、随分元気をとり戻した様でした。丁度二十一日はハーバート大学の入学登録日で朝一杯と午後の間、同じケンブリッジに住む僕の姉夫妻に頼み中村君に充分の休息をとってもらいました。電話連絡で有馬竜夫氏の友人のヤング氏がコンコード迄、彼の車を運転してくれるという事で、夕方の四時半頃、ラッシュアワーで混みあうボストンを出発、夕暗せまる六時半頃、セントポールズスクールへ着きました。

校長ウォレン夫妻が食事中をわざわざ出迎えてくれ、中村君に「君をここにお迎えできて嬉しい」といって下さいました。夕食をすませ数人の先生方と話をし、しばらく、あちらこちらを見てまわりました。毎秋夏休みが終って学校へ戻ってきて、何か変わった事を見るのは楽しみなもので、今回も数学のための新しい建築物が完了しており、新しい舗装道路が前迄のぬかるみに変わっていました。

中村君の寮は Middle House といって一番新しい寮の一つで、美しい教会の塔と学校の池を見下す丘の上に建っています。彼のグループマスター（十五、六人の生徒が一グループでそのアドバイザー）

1 レッグ先生は若い歴史の先生で、日本の事にも詳しく、ハ

セントポールズ通信

中村 八郎

九月十三日最上山丸船室にて
皆さんお元気ですか、僕は今、サンフランシスコ湾の中、ゴールデンゲートとベイブリッジの間の海の上にあります。夕焼の空の中にサンフランシスコやオークランドのネオンが美しく輝いています。

船は今日午後四時ここに着いたのですが（日本時間十四日午前八時サマタイムなので八時間進んでいる）日曜日のため税関が休みで明朝オークランドの北リッチモンドに降りる事になりました。屋間は海霧のため何も見えませんが、サンフランシスコに着く前から晴れたので幸いでした。海からゴールデンゲートが見えた時、いよいよアメリカだなと何ともいえない感じがしました。日本を出た次の朝たいして海は荒れていませんでしたが、酔ってしまいました。それから二、三日低気圧のため随分荒れました。船は北へのぼるの相違寒くなりました。後から来たモンタナ丸は、大変速く途中でぬかれてしまいました。平均十九ノット位出ていたらしいです（本船は約十八ノット）。一緒に乗っていた二人の外人学生は、漢字の勉強をしていていろいろの意味を聞くので、大変苦労しました。十日たって見るとあまり長かったようにも感じませんが、海の真中にいる時はずいぶんたいくつしました。横浜を出る時は多勢の方々にお見送りを頂き、又いろいろと贈り物を頂き有難うございました。大変皆様に御世話になりました。よろしくお伝え下さい。いよいよこれからが大変です。

郎君を親身になって世話してくれると、語っていました。先生の特別の思慮でその晩は中村君と同じ部屋にベットをとり、学課の事等を中村君と決めました。彼はすでにかなりののはっきりとした意見をもっており、英語、数学、宗教学、ドイツ語、科学とは決ましました。彼は将来医科方面へ進む意志をもっており、それらのコースは適当と思われます。その他詳しくは彼自身から便りがあると思います。

さてハーバートは二十一日に始まり、ヤードには地図を片手にあちこちを見まわしている新入一年生でにぎわっています。それに上級三年の学生が入ってくる、いよいよ大学としての歯車が徐々にまわり始めるでしょう。僕の寮はスエアーハウスといって、一番大きな寮の一つで約百二十人ぐらいが住んでいます。今迄「アメリカ中で一番きたなく旧式の寮」だったそうですが、今夏中全く改造してすばらしい、明るく広い部屋を学生に提供しています。僕の部屋は二階にあつて十畳ぐらいの大きな部屋と六畳ぐらいの寝室、二畳敷ぐらいの洋服をかける所となっています。他にはシャワーが各個の部屋にある寮もあります。今迄寮室が値段によって違いましたが、今年からすべてが同じとなりました。

今週はオリエンテーションの週で、テストがあつたり、教授との面接があつたりしています。やはり三百年の伝統は、教授の一言に建物の中の一つ一つに感じられ、この大学の偉大さを感じ、その空気の中で呼吸する喜びを興奮をもって味わいつつあります。

「ハーバートには英雄はいない」と僕のアドバイザーがいていましたが、大海の上での海鳥の一声は瞬間的なものである事を感じさせられます。（ハーバード大学一年）

九月十九日 ロスアンゼルスにて

十四日朝きれいに晴れていました。午前八時リッチモンドに上陸税関も簡単にすみ、従姉夫婦を迎えられ自動車でサンフランシスコの町を見物しました。ゴールデンゲート公園にも行きました。市の中では五〇マイル位で走りますが、立体交差なので止まらないですみます。道の良い事は想像以上です。だいたい片側が三列、真中はグリーンベルトになっています。それより自動車と汽車でロスアンゼルスに向いました。途中中等学校を見学したり、ディズニランドを見学したりしました。ディズニランドは実に金をかけてつくったものだと思いました。ロスではフルシチョフ首相が滞在中でしたが、あまり大さわぎはしていませんでした。

月ロケットにしても、アメリカはソ連に負けていないということをテレビでさかんに放送しています。壁にかけられるような薄いテレビ、ボタン式の電話などがそろそろ売り出されています。

九月二十三日 セントポールズスクール第一夜

二十日午後四時ロス発AAのジェット機でニューヨークに向いました。途中はすばらしい天気で、広大なアメリカ大陸が一目で見わたせました。グランドキャニオンも見えましたがさすがに大きなものです。下は地図で見ると全く同じように見えます。夜一二時二〇分インターナショナル空港につきました。所要時間は、ニューヨークまで四時間二八分です。ニューヨークの飛行場は広いですがあまりきれいはありません。スペイン語を話す人が多いのには驚きました。三時間休けい後、のりかえ、朝四時三〇分ボストンに着きました。大変寒いところです。大久保さんが迎えに来て下さり、一緒にハーバートの寮に行き、しばらく寝ました。朝大久保姉御夫妻

のお宅でございになり、いろいろお世話になって元気をとりもどしました。午後四時過ぎ、大久保さんと一緒に有馬さんの友人の車でセントポールズへ送っていただきました。セントポールズは実にきれいなところ。道以外はほとんど芝生で、リスが至るところに見られます。ウォーレン校長が迎えて下さいました。間もなく先生方と、早く来ている生徒達と食事をしました。先生方はじめ色々な人に紹介をして頂き、大久保さんは、明日からハーバードが始まるので帰ってゆかれました。僕の入ったのはミドルという寮の三階で二人です。相手はトンプソンという人で大変親切な人です。

十月五日 セントポールズスクールにて

今日はクリケットホリデーといって学校はお休みです。みんな町へ行ったり色々な事をしていきます。ニューボーイズは学校のキャンパスでこれから行くところです。久しぶりに勉強からちよつと解放されて一と息ついたところです。毎日の日課を大体お知らせします。平日は、六時四十五分起床、七時五分朝食、八時一十分チャペル、八時三十分～九時二十分第一時限、九時三十分～一〇時一分、第二、一〇時二十分～一一時五分、第三、一一時一〇分～一一時五十分、第四、一二時～一二時四十五分、第五、一時昼食、一時四十五分～二時三十分メーク・アップ、二時三十分～四時二十分スポーツタイム、四時五十分～五時三十分、第六、五時三十分～六時二十分、第七、六時三十分夕食、一〇時三十分～一一時就寝という順序です。朝は二〇分だけこつ顔も洗えるし洋服も着られます。食事は大変おいしいです。朝のチャペルと第一時限の間にビッグ・スタディという大きな部屋に集まってウォーレン校長がいろいろと伝達をします。聞き洩らさないようにと思って前の方で聞いていま

す。それでも、ときどき解らない事もあります。外国語としてドイツ語を取りました。数学は三角函数をやっています。それから、Public affairs というのがあって、成蹊でいえば船越先生のなさっているらしいやる社会と良く似ています。毎日、ニューヨークタイムズの社説を読むことを要求されます。タイムズにはこの間の台風のことが大きく出ていました。英語と宗教とはやはり難しく、特に一日に二十頁も本を読まされるのでとてもかかないません。目下のところ、朝から晩まで本を読むので時間が一ぱいです。でも午後には二時間位づつ運動の時間があって今はサッカーをやっています。素晴らしいグラウンドで空気がきれい、とても良い気持です。サッカー場のすぐそばに望遠鏡のドームがありますが、今にもっとひまが出来たら使おうと思っています。毎週土曜日には映画があります。泥棒成金と麗わしのサブリーナを見ました。先週の日曜日、平井さんが来て下さっている話をして下さいました。ウォーレン校長、寮のケロッグ先生、又友達も親切にして下さるのでたすかります。僕はHechと呼ばれています。今、学校は全部で男子ばかり四五〇人、全寮制で外国人は、フィンランド、モロッコ、イスラエルなどから来て居ます。大きい人、小さい人又顔もさまざまです。たいていの人はピアノがひけたり何か出来るので僕も何かやって居たらよかったなと思っています。今は午後八時、スチームがはいってあたたかです。沢山居たリスも、もうすっかり姿を消しました。木の中でゆつくり暖たまっているでしょう。霜が降りて朝晩は大変寒くなってきました。皆様お身体御大切に

c/o Box 281, St. Pauls School
Concord, New Hampshire
U. S. A.

成蹊会近況

報告事項

昭和三十四年一月一日
至昭和三十四年十一月三十日

人事

○高校部会正副委員長（高校部会委員会・二月六日）

委員長

宗像 英二（高一）

副委員長

三野 明彦（高五）

松本 良祐（高八）

○会長・副会長・常務理事（第十六回理事会・四月二十二日）

会長

南部 鎮雄（高一）

副会長

青葉 翰於（実八）

辻 忠敏（専一）

宗像 英二（高一）

常務理事

谷岡喜久蔵（高十一）

○特別会員（第十六回理事会・四月二十二日）

特別会員推薦規程改正により、新たに推薦された者

大 学

高柳賢三 入江啓四郎 岩佐正

夫 佐々木昌義 佐藤功 塩崎

光蔵 関島久雄 巽博一 中村

清一 村瀬興雄 新井益太郎 安

藤英治 木村達二 菅原吉彦（卒）

肥後和夫 広瀬三男 芦川長三

郎 池田正徳 佐藤竺 佐藤庸

沢柳保夫 二瓶重直 日比行一

石田鶴彦 内田信夫 江幡知和

子 大内一彦 奥住正彦 上

木敏郎 京極興一 香西照雄

坂井忠次 谷村辰巳 永岡定夫

中島知（卒） 羽深幸男 平田博

則 藤井一美 船越経三 別枝

達夫 三浦信一 宮本敦

吉崎恵次

栗原美能留（卒） 足達尚美 岩

淵泰 小野明 楠本博也 清水

恒子 清水英子 高柳茂 寺尾

小 学

豊太郎 中村万三 林俊一 足

田啓吉 松田満夫 柳井吉英

横手長治 渡辺和雄 和田直子

和田真理子

野田彰 伊東良延 石井精三

大西貢 太田浪三（卒） 奥下市

郎 加藤達馬 亀村五郎 木村

定司 小島三雄 田植豊実 竹

内丑雄 谷川澄雄 星野慶治

堀内輝三 堀松郁三 松田京子

以上七十八名

○幹事（幹事会・六月十四日）

実務部会

青山 太伸（四）

中学部会

多田 穰（四）

専門部会

渡辺 一美（五）

高校部会（旧）

萩 正勝（九）

坂井久弥（二十一）

高校部会（新）

芦沢 直保（三）

川瀬 昌彦（八）

戸塚 新（一）

大学部会

河野 啓子（二十）

女学部会

戸田 光子（十）

小学部会

日

○育英奨学委員（第十七回理事会・八月十四

日）

安部 豊明（専四） 井本 農一（高六）